

お知らせ

市民懇談会の報告

市民協働〜自治体の生き残りをかけて〜

◇7月2、3日の2日間、午後7時から山武・松尾地区の2会場で開催した20年度「市民懇談会」には、59人の参加がありました。今回は、市民の皆さん・議会・行政と一緒に活動し、地域をつくりあげていくために、「市民協働〜地域の生き残りをかけて〜」をテーマに行いました。

【協働とは】

相互に自立した立場で、共通の課題解決や目的達成のため、立場や特性を認識・尊重しながら一緒に考え、お互いの足りないことを補充しつつ、協力して取り組むこと。

◇市長からは、

「地方が置かれている現状を理解し、皆様方と一緒に活動していかなければならない、ということでも市民協働というテーマでお話しさせていただきます。」

テーマに、「生き残り」という言葉がありますが、行政も地域の生き残りをかけて、自らの責任を果たそうとしています。市民の皆様も地方自治の主人公として、どのように考

えて活動していただくかということが鍵です。一緒になって考えていける懇談会になればいいと思います」と挨拶しました。

◇懇談内容の一部を紹介します

○「市民協働」より、地域が生き残る方が大事。行動を起こした自治体は、住民も一緒にやってやるし、地域の皆さんも誇りを持って、皆さんが幸せに暮らせる、そういう自治体づくりを進めていくべきだと思う。期待しているのは、農業を盛り立て、地域振興を起す、何か行動を起す、そのために、私達も知恵を出し取り組んでいきたい。自分たちの知恵を出そうという懇談会を進めて良い自治体づくりを進めていけたらと思います。

●そういう懇談会が近々できるようにしたいと思います。地域振興は山武市の将来にとって非常に大事なので常にやっていかななくてはなりません。

今、考え方としてあるのは、4つの拠点（山武、成東、蓮沼、松尾）をたてるプロジェクトを立ち上げています。成田空港の研究チームをつくらうかとも思っています。

この地域が発展できるように、自分一人ではできないので、皆さんの知恵と積極的な参加をお願いし、まちづくりをやっていききたい。これが協働で、協働は地域振興につながるのかもしれない。地方分権を前向きに捉えて、これはチャンスだと考えなくてはならないと思います。

○自分の周りにたまり場がなく、相談しあえるようなコミュニケーションが取れていません。

行政は、情報を持っているので、市民交流の手助けや相談に乗ってくれるところがあるといい。たまり場の中からいいアイデアがでるかもしれない。

たまり場として利用できそうな共同館がいつも閉まっていてもつたないと感じます。区長の一年に一回の集まりの時に、勉強会のような懇談会はないのでしょうか。

●昔の村社会、人間関係が、どんどん失われてきて色々な問題ができています。経済中心に考えてき

たからだろうと思います。昔あった良かったものは何だろうと考える必要があります、今のお話は貴重だと思います。

市では、職員もみなさんと一緒になってやっていこうというまちづくりの勉強を始めました。行政も勉強していく立場です。

担当〓市民活動支援課

他にも多数のご意見をいただきましたが、紙面の都合上、全てを掲載できません。ご了承ください。

*次回の懇談会は11月13日(木)14日(金)「山武市のバイオマス活用」の取り組み」です。



様々な団体が協働した「市民活動フェスタ」
(平成20年2月11日 のぎくプラザ)